

---

# 2023年度事業報告書

---



公益財団法人

**ボーイスカウト日本連盟**

## <目 次>

1. 最重点施策	-----	1
2. 成果目標	-----	1
3. 最重点事業への取り組み	-----	1
4. その他の事業への取り組み	-----	5
5. 各種会議の開催報告	-----	25
6. 参考（規程等改正一覧）	-----	30
7. ボーイスカウトエンタープライズ事業報告	-----	33

# 公益財団法人ボーイスカウト日本連盟

## 2023（令和5）年度事業報告

2023（令和5）年度は、第3期中長期計画1年目の年で、この中長期計画では、10年後の2032年に、どうなっていたいかを示した「ビジョン」が明確にされ、そこへ向かうための4つの基本施策と、それぞれの基本施策に対応する施策、その為の重点事業をどうするかを示しました。

単年度の事業計画は、この「ビジョン」に対し、現状はどうなっていて、その年度に何をしなければいけないか？という視点で計画しました。

2023（令和5）年度は、そのスタートの年にあって、日本連盟の施策を展開する各担当部門が、この中長期計画に示された4つの基本施策、重点事業に取り組む仕組みを明確にする「社会に貢献できるスカウトを育てるための仕組みを確立する。」を2023（令和5）年度の最重点施策として取り組みました。

### 1. 最重点施策

社会に貢献できるスカウトを育てるための仕組みを確立する。

### 2. 成果目標

- (1) 2023年9月末までに、中長期計画に示されたビジョン実現の為の重点事業の行動計画を明確にする。
- (2) 2024年1月末までに、(1)で明確になった各担当が設定した計画事業（2，3月予定も含め）執行率の100%実施
- (3) 2024年3月末、加盟員登録数 80,000人以上  
（その達成の為の施策例）

エントリー部門の加入推進	対象年代児童の加入率アップ（市場開拓）
中途退団防止推進	魅力あるスカウト活動展開（魅力向上）
ボーイ部門以上でも入団できる環境の構築	新たな市場開発

2024年3月末の加盟登録人数は77,780人に留まり、目標数に達することが出来ませんでした。しかし、ボーイスカウトの新規加入は344人となり、昨年度末の276人から68人の増加がありました。（124.64%増加）

### 3. 最重点事業への取り組み

最重点事業を以下の通り展開しました。

- (1) 「ワクワク自然体験あそび」の全国展開（中長期計画：基本施策Ⅰ、Ⅱ-1-⑥）

4年目を迎えた「ボーイスカウトとあそぼうワクワク自然体験あそび」は、文部科学省の後援を得て、昨年度に引き続き、47都道府県で開催することができました。1092会場（中止を含む、事業登録は1121会場）、15,313人の一般児童の参加を得ることができました。また、県連盟向け説明会の開催（計2回）、ホームページに申込ページ及び運営情報ページを掲載・更新、組織拡充委員他による会場視察、実施主体に開催補助金の交付を行いました。

なお、次年度も文部科学省の後援を得て開催できることが決定し、2024年3月に県連盟

向け説明会を開催（計2回）しました。

(2) 第25回世界スカウトジャンボリー派遣

（中長期計画：基本施策Ⅰ-2-②、Ⅱ-2-③、Ⅲ-3-②）

8月1日から8日12日まで大韓民国・全羅北道セマングムで開催された第25回世界スカウトジャンボリー（25WSJ）に次のとおり日本派遣団を編成し派遣しました。

今回の大会は、猛暑への対応、台風6号の会場直撃予報による8月8日の全参加者の緊急退避、8月11日の閉会式がソウル市内のワールドカップスタジアムに会場が変更された実施等、異例の大会となりました。

【参加大会】第25回世界スカウトジャンボリー（25th World Scout Jamboree）

世界スカウト機構（WOSM）主催

韓国スカウト連盟・韓国政府・地方自治体を含む「韓国25WSJ大会組織委員会」がホスト

157の国と地域から約43,000人が参加

【大会期間】2023年8月1日（火）～8月12日（土）12日間

【テーマ】"Draw your Dream!"（あなたの夢を描こう！）

【派遣期間】＜IST＞7月29日（土）～8月14日（月）17日間

＜C分団参加隊＞7月30日（日）～8月12日（土）14日間

＜A・B・D（2隊）・E分団参加隊＞7月31日（月）～8月12日（土）13日間

＜B・D（5隊）参加隊＞8月1日（火）～8月13日（日）13日間

【派遣人員】合計1,563人

＜内訳＞ 参加隊35隊 スカウト1249人、指導者139人、計1,388人

国際サービスチーム員（IST）145人（うち1人JPT）

派遣団本部員（CMT）30人

【分団編成】日本派遣団の35こ隊は、出発・帰国地および人数を考慮し、5つの分団を編成しました。

＜A分団＞	成田または羽田空港発着	第1隊～第8隊
＜B分団＞	成田または羽田空港発着	第9隊～第16隊
＜C分団＞	中部空港発着	第17隊～第22隊
＜D分団＞	関西空港発着	第23隊～第29隊
＜E分団＞	関西空港発着	第30隊～第32隊
＜F分団＞	福岡空港発着	第33隊～第35隊

【成果と評価】

- 今回の大会は隣国の韓国で開催のため、応募者がこれまでのWSJ派遣より多く、とくにISTの参加が多く、反面、派遣実施前の内定辞退と追加内定の人数もこれまでの派遣で最多となり、交替者が多い参加隊の指導者の負担が増えました。
- 会場は高温・多湿の環境で、イギリス派遣団・アメリカ派遣団が途中で退場し、その後、台風の直撃に備え全参加者が各地に緊急退避しましたが、各参加隊の報告書によると、日本派遣団の殆どのスカウトは、会場で素晴らしい経験をしました。
- 参加スカウトは、厳しい自然条件でありましたが、多くのプログラムに積極的に参加し、友情を深めることができました。

- 8月6日の文化交流日には、各隊サイトで日本の習字、けん玉、折り紙などの日本文化を紹介し、周りの外国隊との交流深めました。
- 8月8日から閉会式当日の8月11日まで、日本派遣団は全員が忠清北道丹陽郡にある救仁寺（クインサ）に緊急退避したが、受入先は最善の対応を取っていただきました。
- 派遣団員全員が無事帰国し派遣を終え、別途報告書を取りまとめました。

### (3) 地域社会、国際社会に貢献するローバースカウトの育成

(中長期計画：基本施策Ⅱ-1-①、Ⅱ-1-③、④、⑤、Ⅱ-3-③、Ⅲ-3-②、③、④)

#### ①ローバーアカデミー公開トークセッションの実施

ローバー部門の教育制度の見直しを行う中で、ローバースカウトへのミッションの発意を促し実行を支援するために、昨年度から引き続き公開トークセッションを2回開催しました。

【第3回公開トークセッション】

日時：4月15日(土)14:00~16:00

場所：京都府民総合交流プラザ京都テルサおよびオンライン配信によるハイブリッド方式で開催

登壇者：九州国際大学 副学長 福西 和幸氏

参加者：会場参加41人(スタッフ含む)、オンライン参加者約60人(他、同時閲覧者多数有り)

テーマ：「歴史の転換期を迎えた世界と国際協力の未来」

内容：私たちが国際協力に取り組む理由は何でしょうか？この数年間の世界の出来事は、私たちの生き方、価値観を改めて考えるきっかけとなりました。日本では、国内で取り組むべき課題が顕在化し、「世界との関わり方」について人々の意識に変化が起こり始めています。「世界に遅れ始めた」といわれる日本が、国際協力の分野で今まで求められてきたもの、これから求められるものを、スカウティングや現場の取り組みから考えます。

【第4回公開トークセッション】

日時：7月15日(土)14:00~16:00

場所：オンライン配信

登壇者：北海道大学病院 先端医療技術教育研究開発センター副センター長/助教 村上 壮一氏をメイン登壇者に、薬剤師・看護師の方々が登壇

参加者：約200アカウントによる接続(他、同時閲覧者多数有り)

テーマ：「災害時における医療の現実と対応」～スカウトには何ができるのか～

内容：医師/DMAT/JDRとして災害救助の最前線に立つ 村上 壮一 北海道大学病院 先端医療技術教育研究開発センター副センター長/助教をメイン登壇者に、薬剤師・看護師の方々が登壇。日本の医療行政に詳しい 古賀 崇雄さんがコーディネーターです。災害現場のことはもちろん、進路の参考に！

#### ②2023年度ローバースカウト集合訓練～防災・減災でスカウトができること・やるべきこと～の実施

プログラム委員会のもとに、公募による専門家の指導者とローバースカウトによる運営委員会を編成して、「ローバースカウトの集合訓練」を実施しました。

「防災・減災」に焦点を当て、避難所運営の基礎知識の習得や、その中でスカウトスキルが役に立つこと、身につけるべきスキルや心構えについて理解が深まり、今後のローバーリングの指針となるよう実施しました。

〈実施概要〉

実施日：2023年9月16日（土）～18日（月・祝日） 2泊3日間

運営スタッフは前日の9月15日（金）に集合

実施場所：MOA大仁研修センター（静岡県伊豆の国市）

参加者：ローバースカウトおよび同年代の指導者 17県連盟から41人（男22人、女19人）

運営：成人指導者とローバースカウトによる運営委員会により運営しました

指導者15人、ローバースカウト5人、奉仕者2人

〈プログラム・訓練内容〉

訓練想定：さまざまな災害がある中で、訓練で想定する災害はどうか、また、発災後から時期を追って刻々と変化する避難所運営の、どのフェーズを経験してもらうかが、運営委員会編成からの大きな議論となり、実際のプログラム内容を組み立てながら、最終的には次のように想定をまとめました。

また、訓練当日は集合して実施できることを優先して、個人でできることは事前課題で取り組み、講義については事前の動画視聴で対応し、2泊3日間のプログラム内容を整理しました。

- ・災害想定：発災から一定の期間、広域的な支援が期待できない大規模災害として「東海・東南海地震」を想定しました。
- ・訓練想定：MOA研修センターでローバースカウトが活動中に発災、周辺住民等がセンターに避難して来て、本来の運営組織である地域防災組織が十分な体制を確保できない状況を想定しました。
- ・フェーズ：発災直後の避難所開設フェーズから展開フェーズまでの数日間としましたが、訓練内容に応じて幅広く考えました。

事前課題：参加申込者には、参加案内とともに事前課題を与え、オンラインおよび動画配信による事前講義を行いました。

事前講義：講義①は参加者とのディスカッションを行うため、9月1日にオンラインにて開催し、計5つの動画配信を行い、参加前に受講してもらいました。講義①に先立ち日本防災士機構の國松孝次会長からの激励のことばをいただきました。

事後課題：参加者は、集合訓練の経験をもとに、各自が住んでいる地域の避難所運営や自主防災組織に関する課題に12月末までに取り組むことで、訓練の修了を認証しました。

#### （4）加盟員、社会への円滑な情報発信・伝達方法の確立

スカウト運動の活性化の為、加盟員にとって必要な情報を、確実に、早く伝達できるように最も重要な日本連盟 Web サイトの全面的なリニューアルを行いました。2023年秋に新しいサイトを公開し、コンテンツの見直しなども進めました。その後も年度内にシステム不具合の修正を鋭意進めたほか、コンテンツの修正などを行いました。しかし、システム上のエラーなどが多数存在していることが明らかになったことから、改修及び今後のメンテナンスについて新たなシステムベンダーとの契約を行い、2024年度からの本格稼働に向けて準備を進めました。

#### （5）日本連盟のガバナンス強化（中長期計画：基本施策Ⅳ）

重点施策として掲げる「全ての組織でのジェンダーバランスと青年参画のルール化の推進」として、2022年度に理事会にて承認した「スカウト・青年の参画方針」についての周知を図った。また、2023年度で任期満了となる理事の改選などの検討（選定委員会）では、ジェンダーバランスや年代構成バランスなどの配慮が行われた。

## 4. その他の事業への取り組み

### (6) スカウトの日活動を県連盟、地区、団に働きかけをして展開する事業（セブン-イレブン記念財団）

スカウト運動が地域社会に根差した実践活動であることを広く社会に周知することを目的に、環境保全や環境美化をはじめとしたさまざまな活動を「スカウトの日」として全国各地で実施しています。

昨年度 100 周年記念事業で実施した「プラごみバスターズ大作戦」をテーマに実施し、12 月上旬に開催された日本最大級の環境展示会「エコプロ 2023」にブース出展して、今年度の取り組み内容を発信しました。

#### 【実施概要】

実施日：2023年9月18日(月・祝日)

実施場所：全国各地

協賛：一般財団法人セブン-イレブン記念財団

後援：文部科学省、環境省、こども家庭庁

実施内容：環境保全・環境美化活動、敬老の日等に沿った社会奉仕活動

一般児童を招待して展開する活動、国際貢献に関する活動

災害復興支援活動、各団・県連盟の状況に応じた活動

テーマ：プラごみバスターズ大作戦

事前申し込み 46 都道府県連盟の 689 団（全 1,773 団に対して 38.86%）から  
スカウト 19,200 人、指導者 9,901 人、合計 29,101 人の申し込み

活動報告 44 都道府県連盟の 622 団（全 1,773 団に対して 35.08%）から  
スカウト 6,526 人、指導者 3,704 人、合計 10,230 人の報告  
（前年度実績参加団 253 団、参加者 5,518 人）

### (7) 県連盟、地区、団の協力を得て、全国での防災キャラバン開催事業（イオングループ）

参加者は約 9,000 人にも及んでいます。日本各地で災害が頻発している中で、改めて「災害対応」「防災」に対する関心が高く「思いやり防災」をテーマに共通プログラムとして災害時の多様性への配慮などを体験できるワークショップを展開しました。特に関東大震災から 100 年を迎えることもあって、その前年に日本連盟が創立したばかりでしたが、後藤新平初代総長の呼びかけのもと、災害支援活動に従事したことなどを紹介するパネルを作成して展示いたしました。

また、会場によっては地域の他団体と連携して、オリジナルプログラムを各地で展開したことを報告いただいております。地域との連携が今後は「顔と顔の見える関係」となって、防災力の向上に寄与することができると感じています。また会場で設けられたボーイスカウトへの関心などの相談デスクへは、相談件数が前年度から倍増する(約 200 件、各会場平均 4.4 人)等、「スカウト=そなえよつねに=防災力=生き抜く力」というイメージへも貢献を果たしているプログラムとなってきています。

【実施概要】 <https://www.scout.or.jp/member/regular-event/disaster-prevention-caravan>

実施期間：会場ごとに通年で実施(約 8 割が 9-11 月の秋口の開催)

実施会場：全国のイオンモール等

共催：イオン株式会社、イオンモール株式会社

開催会場：下記のとおり

1	北海道	イオンモール釧路昭和	11月26日	28	愛知	イオンモール木曾川	2024年2月4日
2	青森県	イオンモール下田	10月8日	29	愛知	イオンモール岡崎	11月2日～11月3日
3	宮城県	イオンモール富谷	9月3日	30	愛知	イオンモール豊川	8月26日
4	秋田県	イオンモール秋田	9月24日	31	滋賀	イオンモール草津	10月14日～15日
5	福島	イオンモール小名浜	2024年2月18日	32	京都	イオンモール京都桂川	2024年2月18日
6	茨城県	イオンモール下妻	10月15日	33	京都	イオン福知山店	2024年3月20日
7	栃木県	イオンモール佐野新都市	9月10日	34	兵庫	イオンモール神戸北	12月10日
8	群馬県	イオンモール太田	6月18日	35	奈良県	イオンモール大和郡山	10月22日
9	群馬県	イオンモール高崎	1月21日	36	奈良県	イオンモール橿原	11月12日
10	埼玉県	イオンモール与野	9月23日	37	和歌山	イオンモール和歌山	7月9日
11	埼玉県	イオンモール上尾	10月9日	38	大阪	イオンモール鶴見緑地	10月1日
12	埼玉県	イオンモール春日部	11月5日	39	大阪	イオンモール茨木店	9月10日
13	埼玉県	イオンモール川口	11月3日	40	大阪	イオンモール大日	9月24日
14	埼玉県	越谷レイクタウン mori	10月15日	41	大阪	イオンモール日根野	12月10日
15	千葉県	イオンモール柏	11月23日	42	鳥取	イオンモール鳥取北	11月26日
16	千葉県	イオンモール木更津	12月3日	43	島根	イオンモール出雲	9月30日
17	千葉県	イオンモール新船橋	10月22日	44	岡山	イオンモール倉敷	11月23日
18	神奈川	イオンモール座間	10月9日	45	広島	イオンモール広島祇園	5月27日
19	新潟	イオンモール新潟南	11月18日	46	徳島	イオンモール徳島	9月10日
20	富山	イオンモール高岡	11月12日	47	香川	イオンモール綾川	9月3日
21	福井	清水東小学校グラウンド	10月14日	48	愛媛県	イオンモール新居浜	10月22日
22	長野県	イオンモール佐久平	2024年2月24日	49	福岡県	イオンモール八幡東	2024年1月21日
23	岐阜県	イオンモール大垣	9月10日	50	熊本県	イオンモール熊本	9月30日～10月1日
24	岐阜県	イオンモール各務原	9月10日	51	大分県	イオン挟間店	9月23日～9月24日
25	岐阜県	イオンモール土岐	9月17日	52	鹿児島	イオンモール鹿児島	9月10日
26	静岡県	イオンモール浜松市野	2024年2月17日	53	沖縄県	イオン南風原店	9月3日
27	愛知	イオン春日井ショッピング	10月29日				

(8) 県連盟の協力を得て組織活性化戦略セミナー開催

組織拡充委員会と広報委員会とで協力し、青森県・栃木県・群馬県・埼玉県・千葉県・東京・愛知・大阪・愛媛県・佐賀県・沖縄県連盟で計11回開催し、計470人の参加を得ました。セミナーの中で作成した団アクションプランについて、年度末に振り返りの機会を設けました。

(9) 全国組織拡充委員長会合の開催

① 全国組織拡充担当委員長会合（第1回全体会）

都道府県連盟の組織拡充担当委員長またはその代理者を対象にオンラインで開催し、41県連盟41人の参加を得ました。



- ・日 程：令和5年7月1日（土）
- ・テーマ：加盟員を増やすために都道府県連盟ができること、すべきこと
- ・内 容：①講演「日本連盟の教育施策の今後」（村田総コミッショナー）
  - ②中長期計画及びタスクチーム委員募集説明及び今年度の委員長会合実施計画説明
  - ③2県連盟の発表「我が県連盟の組織拡充イチオシ事業」
    - ・福岡県連盟「団支援事業 新入団者への祝い品」
    - ・山口県連盟「指導者人材の発掘事業」
  - ④プログラム委員会説明「ローバーアカデミーについて」（野上プログラム副委員長）

② 全国組織拡充担当委員長会合（第2回全体会）

都道府県連盟の組織拡充担当委員長またはその代理者を対象に、初めて完全対面式で開催し、43県連盟43人の参加を得ました。

- ・日 程：令和5年10月28日（土）～29日（日）
- ・場 所：東京・スカウト会館
- ・テーマ：加盟員を増やすために都道府県連盟ができること、すべきこと
- ・内 容：①組織拡充委員会報告 今年度の組織拡充の現状（木村組織拡充委員長）
  - ②基調講演①「県連盟の組織拡充担当委員長に期待したいこと」（水野理事長）
  - ③基調講演②「組織拡充につながる教育施策」（村田総コミッショナー）
  - ④グループディスカッション
  - ⑤プログラム委員会報告（川瀬プログラム委員長）
  - ⑥中長期計画タスクチーム 紹介、意見交換
  - ⑦2号会員登録管理小委員会 事業紹介（小川2号会員管理小委員会委員長）

③ グループ別オンライン会合（原則年2回・各回2時間程度）

47都道府県連盟を組織拡充に関する課題や特性により7グループに分け、各グループに組織拡充委員会委員を割り当て、オンライン会合を開催しました。

(10) 「人生の岐路に立つ君に」展開事業

昨年度（2023年3月）に発送した1,644人（内、62通は「あて所に尋ねあたりません」等で事務局に戻り）の手紙を送付し、9人のスカウトから新しい住所地の団を紹介して欲しい旨の連絡がありました。9人の内3人には大学ローバー隊を紹介し、1人が大学ローバー隊に従登録して活動を開始しました。残りの6人には新しい住所地の団を紹介し、4人が転居先の団で活動を開始しました。

今年度については、2024年1月10日までに対象スカウト1,534人（内、51通は「あて所に尋ねあたりません」等で事務局に戻り）へ発送しました。

(11) AISの周知展開事業

①日本連盟AISポリシーの策定

スカウト運動における成人に関する世界方針（2018対訳版）をこれまで活用してきましたが、本連盟、そして日本人になじみやすい表現に整理し、AISに準拠するため、これまでの指針、指導者養成体制の全面的な見直しをしてこれらを3部編として編集、発行しました。緊急案件で夏までの策定を目標としていましたが、令和6年1月の公開となってしまった。

- スカウト運動の成人に関する方針（日本連盟AIS方針）
- 指導者に関する指針（日本連盟AIS方針-付随資料①）
- 指導者訓練体系（日本連盟AIS方針-付随資料②）

## ②地域の成人や企業・団体との共同

人材発掘の考え方について、組織拡充委員会と共に2号会員制度の構築の取組みをおこなった。制度構築へのAISの考え方の共有のほか、マイページの運用を通してAIS関連の情報発信していくことについて協議を進めました。スカウト経験者やサポート会員の登録推進を引き続き取り組むことを確認しました。

専門家との連携について、プログラム委員会と共にローバーアカデミーについて、委員派遣によるタスクチームにおけるAISの観点について連携を強めました。

地域を巻き込んだ活動推進のためのネットワーク策定について、プログラム委員会と共にローバースカウト集合訓練を切り口とした「防災」について地域と連携していくことの検討を行い、ネットワークの策定には至っていないが実践を重ねていくことが必要であることを確認しました。

## ③AISに関連する情報発信

機関誌「スカウティング」において、キャラクターの活用や図式化するなど加盟員がイメージしやすくする工夫を施すことで、本連盟として取り組むAISに関する情報発信を積極的に行いました。

## (12) 県連盟、地区、団の協力を得て、指導者訓練事業の展開

本連盟では、スカウトが楽しいプログラムを体験できるよう、成人指導者の研修を実施しています。本年度については、以下のとおり事業を展開しました。

### ① 県連盟開設訓練コース

- ボーイスカウト講習会 (212回、3,376人)
- ウッドバッジ研修所「スカウトコース」 (36コース、732人)
- ウッドバッジ研修所「課程別研修」 (129回、989人)
- 団委員研修所 (9コース、134人)
- コミッショナーベーシックトレーニング (3コース、43人)
- コミッショナー任務別研修 地区コミッショナー課程 (5コース、74人)
- コミッショナー任務別研修 県コミッショナー課程 (1コース、21人)

### ②日本連盟開設訓練コース

- ウッドバッジ実修所 (5コース、121人)
- 団委員実修所 (3コース、55人)
- ウッドクラフトコース (1コース、24人)
- コミッショナー任務別研修 県コミッショナー課程 (1コース、21人)

### ③日本連盟トレーナー養成コース

- リーダートレーナーコース (1コース、12人)
- 副リーダートレーナーコース (1コース、21人)

### ④現代的手法を取り入れたトレーニングの開発

LMS(Learning Management System : Moodle で開発)を使い、オンデマンド研修を構築し、次年度以降に運用が開始できるよう実施展開を行いました。

オンデマンド研修構築には、システムに投入する研修内容を十分に吟味と組立が重要(従来の講義方からの脱却)であることから、「手法」についても専門家の知見をあらゆる角度から学び、取り入れる取り組みが必要であることを確認しました。

令和5年度：島根連盟で試行(2月に事前研修、3月に集合研修を出雲大社で実施)

### (13) 県連盟に対し、指導者養成補助金支給事業

上記、県連盟開設訓練コースのうち、複数日程での宿泊を伴うコースに対して、県連盟による円滑な運営を促進するために、開設補助金を支給しています。

#### ① 県連盟開設訓練コース

- ウッドバッジ研修所「スカウトコース」(36コース)
- 団委員研修所(9コース)
- コミッショナーベーシックトレーニング(3コース)

### (14) トレーナー研究集会等の開催

今回のトレーナー研究集会では「成人を増やす」取り組みのひとつである、ボーイスカウト講習会について、また「支援する取り組み」について団委員研修に焦点を当てて、そのために必要なことは何かについて研究しました。

本年は、全国の日本連盟トレーナーを対象として、下記の通り開催しました。

- 日本連盟伝達事項等については、事前に動画を配信し、各自で視聴する。
- 共通のトピックに対して、グループワークを伴う研究を実施する。

#### 【令和5年度トレーナー研究集会】

日時：2024(令和6)年2月4日(日)～25日(日)

場所：全国6ブロック、11会場

研究テーマ：

- ①「ボーイスカウト講習会における保護者へのアプローチ方法」についての研究
- ②「団委員研修における追補資料の活用」についての研究

また、本年も新任副リーダートレーナー研修会を開催し、副リーダートレーナーコースを修了、トレーナー就任を承諾された者を対象に、委嘱状と3ビーズの授与の他、各種手続き、トレーナーとしての心構えについて研修を行いました。

トレーナーの任務や、必要な資料の活用方法、関連する教育規程について研修を行い、トレーナーとして奉仕する決意を新たにしている有意義な研修となっています。

日時：2024(令和6)年3月2日(土)…東会場、3月3日(日)…西会場

場所：東会場：日本連盟スカウト会館、西会場：大阪スカウト会館

参加者：東会場：8県連盟 10人、西会場：7県連盟 11人

### (15) 県連盟ディレクター研修会の開催

県連盟ディレクターとしての能力向上や情報共有のほか、日本連盟A I S方針の理解促進および、新しい訓練内容や運営に関する内容と本年度トレーナー研究集会の内容説明のため、開催しました。

各種訓練コースの評価・分析等の報告のほか、「日本連盟版A I S方針の理解」とトレーナー研究集会のテーマと合わせた「団委員研修における追補資料の活用」の2テーマについて研究を深め、県連盟ディレクターとしての役割を見つめ直す機会としました。

#### 【令和5年度県連盟ディレクター研修会】

日時：2023年12月2日(土)13:15～3日(日)12:00

場所：国立オリンピック記念青少年総合センター

参加者：県連盟ディレクターおよび代理 44人

### (16) トレーナー制度の見直しを含めた検討実施

## トレーナー再任用制度

指導者数の減少とともに、トレーナーの人数が毎年約20名減少し、60歳代に占める割合が40%以上で上昇傾向にあることから、これまでの経験やノウハウを発揮し、指導者訓練への寄与及び後進のトレーナー育成で活躍していただくことを目的としたトレーナー再任用（再委嘱）制度を導入することとしました。

・対象：11県連盟17人

・任期：2024（令和6）年4月1日から2025（令和7）年3月31日まで

## （17）A I S委員会に求められている支援の把握と支援策の策定

隊指導者が活動しやすいための団委員会の任務、業務の再構築として、以下の観点において検討を進めてきました。

①ジョブディスクリプションの策定

②隊長、団のサポート資料の作成

③モチベーションを上げるための方策

④後継者を得るための方策の検討

⑤隊長をサポートする団、育成会の体制

⑥隊長をサポートするための地域との連携

⑦活動評価の方法とポイントの検討

今年度は、A I Sのライフサイクルを切り口に各コンポーネントを理解し、特に上記のうち②、③の観点におけるサポート資料の開発を行いました。年度内に3回説明する場を設け、ライフサイクルとは何か、モチベーションを上げるための第一歩を踏み出す理解を得られました。

- 隊指導者のモチベーションアップにつながる説明資料

- 隊指導者のモチベーションアップにつながるハンドブック版の稿本

- 団をサポートするためのコミッショナー向け説明資料

## （18）プログラムの棚卸改定事業（信仰奨励、ソング、進級、SGDsなど）

### ①信仰奨励

信仰奨励小委員会、および宗教関係者の会のオンラインによる意見交換会を定期的に開催し、宗教関係者の会の活用とともに、各部門の信仰奨励や指導者への支援を検討してきました。次年度から信仰奨励章の見直しや所得への支援の具体策を検討・実施していくこととしています。

### ②スカウトソング

スカウトソング音源制作タスクチームを定期的に開催し、新たな音源制作について協議し、2回の収録作業により、ドリームチームによる編集を経て計3曲の音源を公開することができました。次年度以降も新たな音源制作を進め、スカウトの参考となる音源公開を続けていきます。

2023年7月17日 録音・動画撮影を実施（愛知連盟・新城吉川野営場）

9月23日 ピアノ伴奏を録音（愛知・名古屋市内）

12月21日 アクションソング3曲の公開

2024年1月7日 指揮動画撮影・歌唱録音（東京・スカウト会館および都内スタジオ）

3月14日 新たな音源3曲を公開

### ③進級

ボーイスカウト部門およびベンチャースカウト部門間でシームレス化されている内容を切り離して、それぞれの部門での進級課程に取り組みになるよう、次の方針により進級課程と進級課目を見直し、2024年より施行しました。

〈ボーイスカウト部門の進級課程・課目の見直し方針と内容〉

各進級に求められるスカウトスキル等を厳選し、主に2級及び1級の進級課目のシンプル化を図りました。

- ・ ボーイスカウト部門の進級課程は初級～菊まで
- ・ 防災と環境保全等に関する内容を盛り込む
- ・ 多様なスカウトの現状に合わせて、1級・菊の取得に必須とする技能章の見直し

〈ベンチャースカウト部門の進級課程の見直し方針〉

ベンチャースカウトからこの運動に参加する青少年が、ベンチャースカウトの活動への取り組みを効果的に促進できるような仕組みを導入します。合わせてボーイスカウトから上進するスカウトにとってもボーイスカウトでの活動とその結果（取得した技能章など）が、ベンチャースカウトでの活動や進級に活かせる仕組みとします。

- ・ ベンチャースカウトの入隊要件の見直しとアドベンチャーバッジの着用を追加
- ・ ベンチャースカウトの進級課程はベンチャー章～隼～富士
- ・ ベンチャースカウト部門の活動目標達成に向けて、プロジェクト法などのプログラム展開を促進・強化することを意図した見直し

#### ④SDGsなど

ボーイスカウト部門の地域社会の貢献に根差したスカウトプログラムの構築に向けて、少人数からも取り組めるSDGsや防災・減災活動など社会に貢献するプログラムの事例を集めたプログラムヒント集を作成した。

#### (19) 富士スカウト表敬訪問事業

富士スカウト代表による国の主要機関への表敬訪問を行い、スカウト自身の情熱の喚起と社会貢献意欲を向上させることを目的に実施しました。

2023（令和5）年1月1日から12月31日までに富士スカウト章を受章した27県連盟127人（うち62人は新型コロナウイルス対応における進歩に関する特別措置により取得）のスカウトを事業対象者とし、その中から県連盟に推薦された代表スカウト94人により実施しました。

【秋篠宮皇嗣殿下へのご接見】

日時：2024（令和6）年3月25日（月）10:00～11:30

場所：赤坂東邸

参加者：代表スカウト26県連盟47人

【首相官邸への表敬訪問】

日時：2024（令和6）年3月27日（水）14:40～14:55

場所：首相官邸

※今年度は首相官邸で岸田総理大臣と盛山文部科学大臣を表敬訪問しました。

参加者：代表スカウト15県連盟47人

決意の言葉、司会、弥栄を行うスカウトは、自己紹介等の動画を提出資料とし選考を行い、表敬訪問に参加するスカウトは、訪問日前日もしくは当日朝に集合し準備訓練を実施しました。

秋篠宮皇嗣殿下へのご接見では、富士スカウトたち一人ひとりが、自身が挑戦した社会貢献や高度な野外活動プロジェクトについて殿下へ説明し、殿下からのご質問にお答えするなど貴重な時間をいただきました。

首相官邸への訪問では、岸田内閣総理大臣より励ましの言葉を、盛山文部科学大臣から激励の言葉を賜りました。

昨年度の事業対象者は18県連盟88人に対し今回127人で、富士スカウト章取得者はベンチャースカウト全体（5,387人）の約2.4%でした。

2023（令和5）年度（4月1日～3月31日）の富士スカウト章受章者は、29県連盟137人となり、2022（令和4）年度受章者24県連盟129人からも、コロナ禍以前の取得人数・割合に戻りつつあります。

#### （20）海外派遣事業（富士など）への支援事業

2023年度は、第25回世界スカウトジャンボリー派遣（重点事業欄参照）を除くと、5カ国に3事業10人の派遣を実施しました。

当初予定されていたオーストラリアへの短期留学（学習旅行）派遣は、オーストラリア連盟の都合により再開が延期されました。2020年度から新型コロナウイルス（COVID-19）等の影響により、多くの事業が中止・延期されていましたが、今年度から再開されはじめたと言えます。

- カンダースシュテーク夏季野営スタッフ派遣
- スカウト特別海外派遣（霞会館補助事業）
- 第12回インドネシアローバームート派遣

#### （21）S f Hポリシー展開事業

後述の「安全促進啓発事業」にも関連するが、昨年度から法務担当理事を中心に各常設委員会担当者によって構成された「セーフ・フロム・ハーム推進協議会」が、各県連盟（または地区）において「セーフ・フロム・ハーム」推進者を対象に、本運動における「思いやりの心を育む教育」を深く理解し、各県連盟（または地区）において「セーフ・フロム・ハーム」の推進活動に活かす事を目的とした「セーフ・フロム・ハーム推進フォーラム」を展開しました。

また、これまで示してきた「セーフ・フロム・ハームガイドライン」や「県連盟セーフ・フロム・ハーム対応ガイドライン」の見直しに着手することとしました。

#### （22）全国スカウトフォーラム開催事業

第1回シニアスカウトフォーラムで『より良い社会を目指して、スカウトは何をすべきか』について討議されたことから、「スカウトの日」は始まりました。日本連盟創立100周年となる2022年に開催した第24回全国スカウトフォーラムの宣言に基づき、各地域で具現化された活動内容や実施されたプロジェクト結果を発表・講評することを通じて、スカウト同士の情報交換や今後の活動展開への活力となり、次回全国スカウトフォーラムへの気運を高めるために、アフターフォーラムアフターを開催しました。

##### 【事業の内容】

事業名：第24回全国スカウトフォーラム アフターフォーラムアフター

開催日：2023年11月3日(金)～5日(日)

事前説明会:2023年10月28日(土)

会場：神奈川・川崎市青少年の家

事前説明会:オンライン

テーマ：「時代とともに変化する課題」への取り組み

参加者：32県連盟から32人の代表ベンチャースカウト（うち1人はオンライン参加）

運営：公募によるローバースカウトによる運営委員会10人、プログラム委員会2人

#### （23）WOSM主催のJOTA-JOTI参加促進

プログラム委員会のもとにJOTA-JOTI2023開催タスクチームを編成して、事前の準備から取り組み、次のとおり実施しました。

【ジャンボリー・オン・ジ・エア 2023/ジャンボリー・オン・ジ・インターネット 2023】

開催日時：2023年10月20日（金）00:00～22日（日）24:00 72時間（各国の標準時間で実施）

日本連盟ウェブサイトの特設ページを設けて、事前申請と事後報告をお願いしたところ次のとおり申請・報告がありました。

事前申込：23 県連盟 128 件 ⇒ 事後報告：22 県連盟 59 件（回答率 46%）

また、JOTA-JOTI 2023 に合わせて、アマチュア無線を中心とした JOTA 体験会（JOTA-JOTI PLAZA 2023）を開催しました。

【JOTA 体験会：JOTA-JOTI PLAZA 2023】

開催日時：2022年10月21日（土）、22日（日）2日間

開催場所：東京杉並会場 スカウト会館（東京・杉並区）

東京豊島会場 一般財団法人日本アマチュア無線振興協会本部（東京・豊島区）

愛知会場 北名古屋第1団野営場（愛知・北名古屋市）

大阪会場 池田市民文化会館（大阪・池田市）

参加人数：東京杉並会場 67人（スカウト25人、指導者・見学42人）

東京豊島会場 43人（スカウト15人、指導者・見学28人）

愛知会場 55人（スカウト25人、指導者・見学30人）

大阪会場 161人（スカウト81人、指導者・見学80人）

運営支援：日本ボーイスカウトアマチュア無線クラブ

協 力：一般社団法人日本アマチュア無線連盟（JARL）

一般財団法人日本アマチュア無線振興協会（JARO）

アイコム株式会社、CQ出版株式会社、

アマチュア無線の免許を持っていないスカウトでも機器に触れ交信することができるよう、体験局兼記念局コールサインの発給を受けて、スカウト加盟員の運用する局を含め、全国のアマチュア無線局と実際に交信を行いました。

〈取り組み内容／実施評価〉

- ・世界スカウト機構が主催する公式国際行事として、世界中のスカウトが、アマチュア無線交信やインターネット通信での情報交換により、互いを理解し知識と友情を深めました。
- ・国内の運用・参加について、22 県連盟 59 件の報告があり、JOTA参加が21件 35.6%、JOTI参加が24件 40.75%、両方への参加が14件 23.7%で、参加スカウト678人、参加指導者・支援者548人、見学者225人の計1,326人でした（前年度は74件、延べ1,704人）。
- ・昨年度から運用の報告件数は減少しているものの、地区や団で JOTI を中心に実施するところが増え、見学者も増加しています。

（24）RSハンドブックの改定事業

全団調査2021においてローバースカウトの活動状況を調査した結果からは、最も多かった回答が「登録はあるが活動実態なし」、続いて「隊指導者としての奉仕を主」とした回答となっており、「独自の活動」が低調であることがわかりました。また、プログラム委員会のもとのRS・VS部門プログラム検討タスクチームにより、5月全国大会時にローバースカウトおよび同年代指導者へヒアリングしたところ、「ローバー活動って何をやるのかわからない」といった声が寄せられました。これらの悩みは長年の課題であり、解決に向けて次の施策を進めるとともに、ローバースカウトハンドブックの改訂とローバー隊に上進・入隊したてのスカウトを対象とスタートセミナーの基

本的な内容を資料としてまとめた。

- ①教育規程の改正：2024年1月13日理事会承認、2024年4月1日施行  
7-30 ローバースカウトの教育 改正→社会とのつながりを強化  
7-32 ローバースカウト活動の実施 改正→活動チームによる活動を明示
- ②教育規程の改正：2024年3月9日理事会承認、2024年4月1日施行  
ローバー認識章の着用→ローバースカウトのアイデンティティを高める
- ③ローバースカウトハンドブックの改訂  
改訂作業完了、ウェブサイトを通じたデータ配信を準備中
- ④ローバースカウトスタートセミナー  
スライド資料、活動事例、実例動画を完成、ウェブサイトを通じたデータ配信を準備中
- ⑤指導者ハンドブックの作成  
原稿を作成し、県コミッショナー会議にて意見徴収まで済、次年度以降も継続作業予定

#### (25) 意思決定プロセスへの青年参画の推進事業

2015年(平成27年)に世界スカウト会議で採択された「世界スカウト青少年参画方針」では各国スカウト組織(NSO)に、それぞれの国や地域の特性や組織体制に即した青少年参画に関する方針の策定を要請しているが、日本連盟においては、スカウト及び青年のスカウト活動の中での参画や、意思決定機関への参画に取り組んでいるものの、参画推進のための枠組みがないことから、教育推進本部において基本的な考え方を協議し、これを体系的に示した「スカウト・青年の参画方針」を策定して2023年3月の理事会において採択しました。

#### (26) 全団調査実施とその分析結果の開示で、団の強化の一助とする事業

2019年度から開始した全団調査も5年になり、多くのデータの蓄積と分析から、日本のボーイスカウトの課題を示してきました。以下にいくつかの注目点を示します。

- ・ 2022年度も新規入団が前年から増え、2021年度に続き中途退団は抑えられた。  
これはワクワク自然体験あそびなど各団の組織拡充施策が奏功しているとも考えられます。ただ、中途退団が抑えられたのは良い傾向ですが中途退団者数は常に注視しておく必要があります。
- ・ カブ隊の退団理由のトップは「学業優先」であり、一昨年度、昨年度と同じ傾向  
カブ隊の退団理由のトップが、全団調査2019では「その他の活動優先」だったが「学業優先」に変わりました。この原因として、その他の活動(習い事・スポーツ)も低調である可能性も考えられます。しかし、ビーバー隊では、「その他の活動優先」が退団理由のトップで、カブ隊でも2位が「クラブ活動優先」、3位が「その他の活動優先」となっており、総合的に見て、保護者の意識とのギャップを埋める取り組みが引き続き必要があると考えられます。
- ・ 隊集会の回数がコロナ禍前の水準に戻ってきており、宿泊を伴う活動も戻ってきた。  
感染症の予防対策も標準化していくことで、安全な野外活動・宿泊活動の新たなスタンダードが充実していくことが期待されます。
- ・ 進級率はあまり変化がない。  
今年度も進級率はほぼ横ばいで、むしろ増加傾向です。これは活動が活性化してきたことと受け止められますが、他方、コロナ禍の影響で進級自体を目的にしたプログラムが定着してしまったことが懸念されます。



- ・ 5泊以上の野営は8割ができていない。  
できない理由は「スカウトや指導者の都合が合わない」ことでした。5泊以上の野営は回答の20%程度で、平均では3泊程度でした。
- ・ スカウトだけの野営が実施されていない  
回答のほぼ80%が「実施できていない」となりました。日常の活動から班の（スカウトだけの）時間を増やし、スカウトの自立（自律）を促す取り組みが大事かと考えられます。
- ・ 指導者の任期はほとんどの団で設定していない。  
期限を切って役務に就任してもらうということはどの部門も指導者不足の中、難しい現状と思われます。任期を設定している団は、1～2年との回答が多くありました。

## （27）写真コンテスト、ムービーコンテストの開催

### ①写真コンテスト

恒例となりました写真コンテストも半世紀を過ぎ、51回目となりました。今年度も11月より2月末まで募集し、少年少女の部205点、青年の部131点、オンライン投稿の部194点の応募がありました。事務局、広報委員、審査の先生方にご協力いただき、入選作品・優秀・最優秀賞を決めました。

本コンテストはキャノン株式会社から商品提供協力を受けており、企業連携事業の一環にもなっています。

また、今回は最優秀賞優秀賞の8枚に関して、APR写真コンテストへ応募を試みています。

### ②ムービーコンテスト

昨年同様8月から9月末までSNS上で募集し、Facebookでは29件、Instagramでは19件、YouTubeでは1件の応募がありました。全国から集まった動画作品の中で、「いいね」数の多いものを選び、その中から俳優で現役の指導者でもある金田賢一氏に最優秀賞と優秀賞をそれぞれ決めていただきました。また、本コンテストにご協賛いただいている株式会社ゴーカレーグループよりスポンサー賞も選定していただきました。

## （28）機関紙の発行と今後の在り方検討事業

年度当初の計画通り計6回の発行（発行部数：33,000部）を行いました。広報連絡会議での協議を経て、各委員会からの要望やご意見を機関誌に反映させることができました。「ニッポン全国元気団紹介」のコーナーでは、各ブロックより元気団を紹介していただき取材を行い、機関誌が一方通行の情報発信に陥らないように努めました。次年度以降、日本連盟の情報発信は、よりタイムリーなウェブサイトやマイページに移行していきます。

## （29）HPの有効活用事業

2022年10月理事会で決定した紙によるスカウティング誌の発行を2024年5月号をもって終了することを周知し、ホームページおよび新しい登録システムに付随する「マイページ」の活用によって加盟員に対して情報提供を行うこととしました。加盟員の減少によってスカウティング誌の編集コスト及び印刷代、これに付随する人件費の負担が重くなったことから、加盟員への情報伝達はホームページなどを通じたデジタルコンテンツでの提供に移行することで、情報伝達に関する経費を、情報システム開発などに振り向けることを可能とし、新時代に即応するデジタルでの情報提供へと大きくシフトすることにしました。ホームページのシステムなどが安定し、マイページなどを通じた情報伝達が軌道に乗った後は、加盟員がスマートフォンなどで使えるアプリケーションの開発を行うこととしています。

また、紙媒体については、支援企業や保護者向けなど、紙での発行が効果的なものについては、2024年度以降も発行していくこととしています。内容については2024年度の新しい体制の広報委員会で議論し、ファンドレイジング委員会などと調整・協力の上、編集・発行していく予定です。

SNSの活用については、2023年夏に韓国で行われた世界スカウトジャンボリーにおいて、海外メディアや個人のSNSなどで情報が錯綜する中で、参加した広報委員が中心となって会場や避難先の状況を伝える写真などを積極的に発信することで、正確な情報を伝える一助となり、国内留守宅などの不安を軽減することができました。

### (30) 「トモス」事業の展開と、原資確保の為のもったいない寄付参加推進事業

#### ① 法人連携

##### ◆企業広告協賛/「コラボバッジ」

<https://www.scout.or.jp/member/new-challenge-badge>

カブスカウトの選択課目として、企業とのタイアップによるコラボバッジ「新チャレンジ章」によって、新たな可能性を探っていきました。またスカウティング誌等への広告料なども引き続き協賛をお願いしてまいりました。

企業協賛(コラボバッジ) 1,323,300円

購読料・広告料 3,073,000円

##### ◆JAMMIN チャリティ T シャツで協賛

さまざまな NPO 法人などとコラボしてチャリティーアイテムをデザイン・販売しているチャリティー専門ファッションブランド「JAMMIN」でボーイスカウトとのコラボ商品が実現しました。

実施期間(販売期間) 9/18-24 実施場所 JAMMIN のオンラインサイトでの販売

寄付額 585,290円(JAMMIN様を通じての寄付)

ボーイスカウト記事 [https://jammin.co.jp/charity\\_list/220815-sasashima/](https://jammin.co.jp/charity_list/220815-sasashima/)  
ヤフー記事

<https://news.yahoo.co.jp/articles/4bf4cd0c6e660aa773873c38db19a6ad28b8b53e>

##### ◆法人連携の促進

コロナ禍から新しい時代になり、対面での訪問ができるようになったこともあるので、これまでに繋がりのある法人と定期的な訪問を行いました。維持会員としての継続的なご支援に繋がるように、日本連盟での最新の取組状況を紹介し、次年度開催の日本アグーナリーへの協賛依頼なども実施しました。また法人向けにアプローチするためのパンフレットを検討した。

#### ② 個人連携

##### ◆維持会員募集パンフレット/維持会員便り

<https://www.scout.or.jp/support/supporting-member>

日本のボーイスカウト運動を支えていただく維持会員を幅広く募集するために、スカウト活動が取り組む「体験格差」(生活に困難を抱える家庭の子どもたちは学校以外の体験活動が少ない)について共感を得て、解決策としてのスカウト活動を紹介するリーフレットを新版に改訂。またご寄付いただいた支援者に対してお届けしていた維持会員だよりを「ボーイスカウト News」として改訂して、年2回発行しました。

維持会員からの寄付 7,209,000円(目標額 2,050万円)

一般寄付 2,314,169円

### ③ ともに進もう助成(トモス)

#### 【クラウドファンディングの実施】

[https://readyfor.jp/projects/scout\\_tomosusu01](https://readyfor.jp/projects/scout_tomosusu01)

実施期間 11/23-2/22

目標額の 330 万円を大きく上回る 365 万 1 千円(274 人からご支援)をいただきました。ご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。オンラインミーティングでは社会課題に取り組む外部ゲストからシリーズでお話を伺いました。このアーカイブは今後も、その分野の社会課題について学ぶ際に参考になるかと思えます。また実施に当たっては代理納付、JAMMIN グッズなど魅力的なリターン、継続的な情報発信などの特徴がありました。

【オンラインイベント:社会的課題について学ぶシリーズ】

■チャンス・フォー・チルドレン 今井悠介さん「日本の社会課題である体験格差を学ぶ」

<https://www.youtube.com/watch?v=vjDS1MEpIm4>

■全国子ども食堂支援センター・むすびえ 三島理恵さん「こども食堂・居場所の果たす役割」

<https://www.youtube.com/watch?v=kk2R2kWrwMw>

■ハッシュダイソソーシャル 勝山恵一さん「全ての若者が自分で人生を選択できる社会に」

<https://www.youtube.com/watch?v=0F9dh9w6tXk&t=605s>

■シンク・ジ・アース 上田壮一さん「SDGs 時代のその先へ」

[https://www.youtube.com/watch?v=bwc0\\_vRtiIs&t=3676s](https://www.youtube.com/watch?v=bwc0_vRtiIs&t=3676s)

■ACE 岩附由香さん「児童労働から持続可能な社会を考える」

<https://www.youtube.com/watch?v=6ZBGU0UBVFg>

■日本カーシェアリング協会 吉澤武彦さん「被災地支援の現状~カーシェアリングから見た地域社会の変化」

<https://www.youtube.com/watch?v=rXhKJxoZhr0&t=2151s>

#### 【トモス指定寄付/もったいない寄付】

<https://www.scout.or.jp/support/donation>

ひとり親家庭などへの支援を行う助成金原資として、指定寄付およびご家庭に眠っている不用品を回収して役立てる「もったいない寄付」を実施しました。

指定寄付 2,755,000 円

もったいない寄付 628,250 円

#### 【対象者向けアンケートによる「インパクトレポート」の公開】

<https://www.scout.or.jp/member/tomosusu-report2023>

ひとり親家庭の保護者に向けたアンケートを実施して、その結果をまとめました。ボーイスカウト活動をできる限り長く続けさせたい 71%、スカウト活動を友人知人に勧めたい 73%、ボーイスカウトが子どもにとって大切な居場所になっていることに加えて、相談相手の一つとしてスカウト関係者を挙げるのが約 2 割(学校の先生の 2 倍)と保護者にとっても繋がりを感じる地域のコミュニティになっていることがわかるなど、日本の社会課題のひとつである「孤立・孤独・孤育て」についてスカウト活動が取り組んでいる価値について可視化しました。

#### 【トモス助成募集開始】

<https://www.scout.or.jp/member/tomosusu-josei>

募集期間 2/23-3/31

対象 スカウト活動を希望するビーバー、カブ、ボーイ年代

#### 【100 周年記念クラウドファンディング「オンライン報告会」】

[https://www.youtube.com/watch?v=T\\_59x\\_yPEhY](https://www.youtube.com/watch?v=T_59x_yPEhY)

日本連盟として初めて取り組んだクラウドファンディングでお預かりした寄付の使い道について、オンラインでの報告会を実施。トモス助成として活用した様子を保護者アンケートの結果などから紹介した。

実施日 9/25 実施場所 オンライン(YouTube ライブ)

#### ④ 遺贈

遺贈受け入れについてのファンドレイジング基盤を整えました。

##### 【日本承継寄付協会との連携】

法人会員として参画、「フリーウィルズキャンペーン」広告(遺贈寄付の遺言書作成費用を助成)をスカウティング誌へ掲載などに取り組みました。

##### 【三井住友信託銀行との連携】

今後の連携について対話を重ねました。

#### ⑤ 緊急支援

##### 【海外災害支援】

[https://www.scout.or.jp/member/emergency\\_response\\_-libya/](https://www.scout.or.jp/member/emergency_response_-libya/)

モロッコ大地震、シリア洪水については WOSM の記事を国内向けに掲載しました。

##### 【トルコシリア地震募金活動報告】

[https://www.scout.or.jp/member/turkey\\_syria\\_0726/](https://www.scout.or.jp/member/turkey_syria_0726/)

トルコ・シリア支援ワッペン販売(10,512枚)により 3,279,744円を寄付

日本連盟サイト寄付総額：904,592円(82件)

ヤフーネット募金寄付総額：362,381円(740人)

合計 4,546,717円を世界スカウト財団を通じて、現地での支援活動に充てました。

##### 【令和6年度能登半島地震募金】

<https://www.scout.or.jp/member/r6notohantou-jishin-support>

4月4日時点でのべ540団以上より約5,528万円の義援金募金を集めたことをご報告いただきました。

見舞金、活動支援金についても口座開設。(3/末時点で)

見舞金 380万円 →被害を受けたボーイスカウト県連盟へのお見舞い

支援金 532万円 →ボーイスカウトが災害支援活動などを行うための寄付

ほかにも被災地のスカウト登録料への支援などを行いました。

#### (31) 外部団体主催事業への協力事業(そとチャレ2023、ぼうさい国体など)

##### ① ぼうさい国体よこはまにプログラム出展

神奈川連盟のご協力によって、ブース出展して、防災に関するプログラムを体験していただきました。おかげさまで、規模が大きい開催であったこともあって、想定の3倍の参加受入れができました。

実施日 9/17-18 参加者 約150人

<https://bosai-kokutai.jp/2023/>

##### ② ユニクロ×ボーイスカウト難民支援衣料回収プロジェクト

[https://www.scout.or.jp/member/support\\_for\\_refugees](https://www.scout.or.jp/member/support_for_refugees)

秋のキャンペーン(8/1~10/31)では、全国80個団から1,500人以上にご支援いただき、

18,000 着以上の衣料をユニクロ店舗へお届けできました。春のキャンペーン(3/1~5/31)とあわせて呼びかけを行っています。

【難民理解オンライン学習会】

<https://www.scout.or.jp/member/refugees-olworkshop-report/>

「難民支援衣料回収プロジェクト」で回収した衣料はどのように難民キャンプへ届くのか?世界における難民を取り巻く現状はどのようなものなのか、などについて難民支援衣料回収プロジェクトを通して「難民」について、スカウトへ伝えている指導者を対象に、国連 UNHCR 協会の天沼耕平氏をお招きし、オンラインでの学習会を実施いたしました。

実施日 7/26 場所 オンライン

(32) 「スカウトと社会をつなぐ場所」開催事業

事業を通じて社会に貢献されている企業経営者の声をこれから社会へ羽ばたいていくローバースカウト年代が直接に伺い、未来への指針を考える機会とすると共に、企業経営者にとってもスカウト経験者という素晴らしい人財について認識を深めてもらう機会となるように設定された「スカウトと社会をつなぐ場所」(略称:スカシャカ)は、今年度もハイブリッド型(現地参加とオンライン参加の両方)で開催。全国から視聴できると共に、直接、熱のこもった対話が進み、現場ならではの一体感も感じる事ができました。参加者アンケートからも関心の高さと満足度が高いプログラムであったことが確認できました。

【実施概要】

<https://www.scout.or.jp/member/sst/>

9/29(金) パロアルトネットワークス株式会社 東京オフィス(霞が関)及びオンライン

参加人数 21人(会場参加 11人、オンライン参加 10人)

(33) I9NSJ、I3NA開催準備展開

①第19回日本スカウトジャンボリー

会場選定特別委員会の現地調査から、次のとおり会場候補地を選定しました。

2026年に開催する第19回日本スカウトジャンボリーの会場候補地  
広島県神石郡神石高原町

会場候補地の選定を受けて、開催準備特別委員会を編成して、候補地調査を含む計4回の委員会を開催して、基本構想を策定しました。

②第13回日本アグーナリー

実行委員会およびこれまでの5つの専門部会の他に新たに「安全・危機管理室」を立ち上げ準備を進めました。

- ・4月の実行委員会で、新たにシンボルマークを決定しました。
- ・5月の全国大会ではI3NAブース展示を行い、障がいの理解と大会周知を行いました。
- ・8月には、大会1年前となるこの時期に、会場の環境や様子、大会の準備状況を知っていただくための現地説明会を開催し、約100人の指導者が参加し、親睦を深める機会となりました。
- ・10月には理事会において大会予算が承認され、基本実施要項を作成しました。
- ・11月から翌年2月末まで参加予定申込を行い、参加隊488人、本部スタッフ290人の申込がありました。
- ・2月にはオンライン説明会を開催し、約200人の指導者が参加し大会の周知、理解を深めることができました。

(34) クラウドファンディングなどの資金醸成事業展開

(25) 「トモス」事業の展開と、原資確保の為のもったいない寄付参加推進事業③を参照

(35) 日本連盟維持会員のありかたと拡大事業

各県連盟に依頼している2023年度の維持会費協力額に基づき、維持会員には年2回の「ボーイスカウトNEWS」を発行した。維持会員の拡大については、日本連盟でも100周年記念の未来のこどもたち基金募金への協力企業などへ継続した寄付の依頼を行い、一部企業からの寄付に結びついた。

(36) 日本連盟財政の健全化推進事業

当連盟のメインバンクでもある三菱UFJ銀行・三井住友信託銀行に回り、資産運用で現状の低金利を多少でも上回る金融商品を利用し資産運用を行った。

100周年記念募金でつながりが出来た大和証券を介して、大和ネクスト銀行の定期預金を新規開設し、期間限定のメガバンクよりよい金利で資産運用を行った。

(37) 日本連盟資産の効果的運用推進事業

資産検討特別委員会を設置し、日本連盟保有資産の洗い出しを行い、営繕等の処置の優先事項を確認した。

(38) 組織の見える化の為に新情報システムの運用展開事業

日本連盟のウェブサイト进行全面リニューアルしました。また、SAJ会員マイページを公開しました。

(39) 新登録システムのチェック事業

新加盟登録システムを稼働させました。

(40) DX有効活用事業推進

ITステアリングコミッティー（オンライン会議）を2回開催し、SAJ会員マイページの機能拡張を検討しました。

(41) 表彰に関する事項

名誉会議での審査により、5月の全国大会で以下の通り表彰を行いました。

- ・人命救助章3人、公共奉仕綬7コ隊、褒状52人、特別功績章2人、感謝盾3人、特別感謝章1人、日連感謝章9人、感謝状個人17人、法人・団体14件、維持会費協力依頼達成県連盟38県連盟、功労章きじ章2人、たか章39人、かっこう章88人、団50年章、隊褒彰綬、特別年功章
- ・全国大会以降3月末までに感謝状、かっこう章、特別感謝章を授与しました。
- ・名誉会議審査基準（内規）、感謝・表彰関連規程の一部改正を行いました。

(42) 他団体との協力事業推進

①学校関係事業

各学校から業務委託を受け、下記の通り自然体験事業を実施しました。

【宿泊学習】

- 9月7日～8日 高萩市立高萩小学校（教員5人、児童48人）、スタッフ4人
- 9月14日～15日 高萩市立秋山小学校（教員6人、児童49人）、スタッフ4人
- 9月21日～22日 高萩市立松岡小学校（教員5人、児童61人）、スタッフ4人

9月28日～29日 高萩市立東小学校（教員4人児童26人）、スタッフ3人  
【日帰り学習】

8月21日 リリー子ども&スポーツ専門学校（教員2人、学生6人、スタッフ1人）  
11月22日 高萩高等学校（教員8人、生徒56人）、スタッフ9人

#### ②高萩市実行委員会「親子キャンプ」

高萩スカウトフィールド活用事業実行委員会のもと、高萩スカウトフィールドにて市内の小  
学生とその親を対象として、野外体験活動を実施しました。

10月14日（土）5家族13人、奉仕者14人

10月15日（日）3家族 8人、奉仕者11人

#### ③高萩市との防災協定

高萩スカウトフィールド最東端地域について、2021年度に締結した高萩市との防災協定に  
基づき、災害応急ヘリコプター離着陸場として利用できるよう「中戸川防災広場」として整備  
を行い、地域防災の一助となるよう提供を開始した。

#### ④キッズフェスタ

独立行政法人国立青少年教育振興機構が、東京・代々木の国立オリンピック記念総合センタ  
ーを会場に、自然体験活動の実践の場として、毎年春と秋の二度「キッズフェスタ」を開催し、  
日本連盟でもプログラムブースの実施協力を行っています。春については、全国大会と同日程  
となったため協力を辞退し、秋については東京連盟からの奉仕者とともに次のとおりプログラ  
ムを実施しました。

【秋のキッズフェスタ実施・協力内容】

日時：2023年10月28日（土）10:30～15:30

提供プログラム：火おこし体験

プログラム参加者：140人

運営：プログラム委員2人、東京連盟奉仕者4人、日本連盟事務局職員3人の計11人

#### ⑤国立青少年教育振興機構との関連事業

文部科学省が2022年度を「体験活動推進元年」とし、2024年度までを「体験活動推進重  
点改革3か年」と位置づけ、コロナ禍で縮小した「リアルな体験」の機会を全国で充実させて  
いこうとする取り組みを受けて、2022年度より国立青少年教育振興機構・ボーイスカウト・  
ガールスカウトが連携し、「お外でリアル体験！」をコンセプトとしたスタンプラリー企画、  
そとチャレラリーを実施した。事業には多くのNPO等の賛同を受けて、多くの参加者を得る  
ことができた。

#### ⑥青少年教育5団体による懇談会

「出会いと体験の森へ」事業を協力・実施していた人を育てるキャンプに携わる5つの団体  
（キャンプ協会、YMCA、YWCA、ガールスカウト、ボーイスカウト）による懇談会で、  
定期的に情報交換を行いました。

【第1回懇談会】

日 時：2023年6月27日（火）15:00～17:00

場 所：日本YMCA同盟（新宿区四ツ谷）

出席者：吉村 敏 事務局次長、平岡 努 ディレクター

主な内容：各団体の近況報告（世界組織との連携、定期総会等、事業や行事等）、オンライ

ンの活用について、懇談会の今後の方向性について他

【第2回懇談会】

日 時：2023年9月26日（火）15:00～17:00

場 所：東京YWCA会館（千代田区神田駿河台）

出席者：吉村 敏 事務局次長、平岡 努 ディレクター

主な内容：各団体の近況報告（夏季事業について他）、各団内の職員の採用について、日本版DBSについて他

【第3回懇談会】

日 時：2024年2月20日（火）15:00～17:00

場 所：ガールスカウト会館（渋谷区西原）

出席者：大浦 秀樹 シニアディレクター、平岡 努 ディレクター

主な内容：各団体の近況報告（能登半島地震の状況・対応について他）、世界組織のビジョン・中長期計画について、各団体の職員の採用について、日本版DBSについて他

（43）事務局業務の見える化と効率化推進事業

事務局職員一覧を氏名、業務内容、連絡先を明示して作成し、各県連、理事等に配布しました。また電子決済機能を用いて意思決定の効率化を図り、グーグルワークスペースの導入等により個人レベル、事務局レベルにおいてもDXを推進することにより効率化を推進しました。

（44）APR、WOSMへの参画、協力推進事業

①アジア太平洋地域主催「専従指導者ベーシックマネジメントコース第51期派遣

派遣期間：2023年11月18日（土）～12月2日（土） 15日間

コースは11月20日（月）～11月30日（木） 11日間

派遣場所：タイ国 チョンブリ県 バジラブドウ スカウトキャンプ

パタヤの北約25km、タイ連盟本部に隣接する

派遣員：平岡 努

コースディレクター：Mr. Settanun Ungkulpasvich(NSOT/Coordinator, APR Ticket to Life)

コース参加者：合計44人（男性：33人、女性：11人）

APR-2人、バングラデシュ-3人、カンボジア-1人、台湾-3人、香港-2人、インド-1人、日本-1人、マレーシア-4人、モンゴル-1人、ネパール-2人、パキスタン-2人、スリランカ-2人、タイ-17人、ベトナム-3人

②第4回世界スカウト教育 kongress

今年で4回目となる「世界スカウト教育 kongress」がフランス・パリで開催され、青少年のリーダーシップ、SDGs教育、異文化理解、多様性、世代間パートナーシップ、デジタルコミュニケーションの分野における世界のノンフォーマル教育の推進に向けた最新動向や各国の取り組みについての情報共有が行われました。

開催日程：2023年12月1日（金）～3日（日） 3日間

開催場所：パリ国際大学都市

主 催：世界スカウト機構（WOSM）

参加人数：約500人（オピニオンリーダー、教育者、学者、WOSMパートナー）



75の国と地域を代表する各国NSO・NSA指導者が参加

主要団体：WOSM、WAGGS、赤十字、YMCA、YWCA、UNICEF、WWF

派遣員：小池さくら（日本連盟 理事／青年代表）、片寄 朗（日本連盟 教育推進本部員・ブロック統括コミッショナー／APRユースエンゲージメント小委員）、渋谷健太郎（日本連盟事務局職員）

#### （45）他のNSOとの連携、協力事業の推進

##### 【日韓スカウト交歓計画】

2020年度より新型コロナウイルス（COVID-19）の影響、そして韓国連盟の第25回世界スカウトジャンボリー準備を考慮して事業を中止していたが、韓国連盟との協議の結果、次のとおり再開しました。

期 間：2024年1月6日（土）～1月14日（日）9日間

場 所：東京・富士・箱根・熱海・鎌倉・横浜

人 数：韓国参加者〔指導者4人、スカウト27人〕／計31人

日本参加者〔3日間の日韓スカウトフォーラム参加〕／計37人（30県連盟）

スタッフ（委員6人、ローバースカウト奉仕者12人）／計18人

日 程：1月 6日（土）韓国参加者到着・開会式・日韓スカウトによる交流

1月 7日（日）日韓スカウトによる交流

1月 8日（月）日韓スカウトによる交流、日本参加者解散

1月 9日（火）韓国参加者 学校訪問（教育）

1月10日（水）韓国参加者 富士・箱根・熱海見学（自然・社会・文化）

1月11日（木）韓国参加者 鎌倉・横浜見学（歴史・文化・芸術）

1月12日（金）韓国参加者 都内見学（科学技術）

1月13日（土）日韓スカウトによる都内見学・閉会式

1月14日（日）韓国参加者 帰国

##### 成果と評価：

- 新型コロナウイルス感染拡大と韓国連盟の第25回世界スカウトジャンボリー準備を考慮して2020年から事業を延期していましたが、今回4年ぶりに再開できました。
- 日韓スカウトフォーラムに参加した日韓両国のスカウトは、9つのグループに分かれて話し合いを行い、SDGsに関連した発表を通じて、日韓両国の現状と課題について知り、相互理解を深めました。
- 日韓スカウトフォーラムは、参加者の96%がとても良い・良いと評価しました。
- フォーラム期間中の宿泊は、施設の不具合があり、部屋の交換で対応しましたが、寝具の使い方と空調の関係から参加者からの評価は低かったです。今後は施設の確認と利用方法の周知を徹底する必要があります。
- 各地の見学では日本の文化、自然、歴史等を体験できる機会を提供しました。また、学校見学では本郷中学校・高等学校の協力で日本の教育の現場を訪問しました。
- 1月13日の都内探訪プログラムは日韓スカウトフォーラムに参加した日本のスカウトとスタッフが6グループに分かれて韓国スカウトの案内を行い、韓国スカウトの要望に対応した。

- 今回は再開決定から実施までの期間が短かったため、ホームステイが出来ませんでしたが、来年度以降に実施できることが望まれます。

#### (46) 共済事業および安全促進事業

##### ① 共済事業

共済加入者数は84,007人(非加盟員含む)で、対前年比で3,288人減、3.8%減で事業運営しました。運営にあたり、Chubb損害保険株式会社(以下「Chubb損保」)との再保険契約を継続し、当連盟が支払った共済金の一部を再保険金として回収しました。

##### ② 安全普及啓発活動等

安全普及啓発活動として「安全促進フォーラム」、「セーフ・フロム・ハーム推進フォーラム」及び「安心・安全講座」の3事業に取り組みました。

###### 【安全促進フォーラム事業】

下記の通り5回開催しました。

- ・ 7月2日 千葉会場 : 参加者43人
- ・ 7月16日 鹿児島会場 : 参加者22人
- ・ 10月22日 北海道会場 : 参加者29人
- ・ 1月28日 埼玉会場 : 参加者29人
- ・ 2月11日 兵庫会場 : 参加者28人

###### 【セーフ・フロム・ハーム推進フォーラム事業】

- ・ 10月29日 福島会場(オンライン) 26人
- ・ 11月11日 奈良会場 : 36人
- ・ 12月3日 広島会場 : 28人
- ・ 12月10日 神奈川会場 : 26人
- ・ 1月14日 鳥取会場 : 11人

###### 【安心・安全講座事業】

スカウティング誌に掲載する「野外活動のための安心・安全講座」の合本電子化やセーフ・フロム・ハームの研修プログラム(Eラーニング)の内容見直しを行ったほか、全県連盟事務局に対するAEDトレーニングキットの配布および希望する県連盟事務局に対するAEDの再配備に伴う一部経費の補助を引き続き行った。

##### ③ 監査

本年度は文部科学省の立入検査はなく、2月29日に当連盟担当役員による内部監査が実施されました。大きな不備は認められず、業務遂行状況は概ね良好である点を確認するも、より高いガバナンスの構築を目指すべく、各種規程類の見直しやデータ保管方法の改善等について指摘があり、来年度以降に対応する方針としました。

##### ④ 役職員に対する教育・研修等の実施状況

理事会において共済事業の関連資料を配付、また、理事研修会において「そなえよつねに共済」の内容についておよび安心・安全制度について研修を行い、共済事業における役員の責務をはじめ、事業全般に対する理解を深めた。担当職員についても円滑な業務遂行を目的に研修を行い、共済事業の内容、とりわけコンプライアンスを重点的に学習した。外部委託業者に対しても定期的な点検を通じて、迅速かつ正確な事故処理体制および業務水準の確保に努めました。

##### ⑤ 「PTA等共済法」に基づく各種届出

- 「PTA等共済法施行規則」第39条に基づき、文部科学大臣に対して次の届出を行いました。
- ・ 2023年6月: 個人情報保護方針(プライバシーポリシー)および個人情報管理規程の変更
  - ・ 2023年8月: 理事の一部退任及び就任

##### ⑥ 賠償責任保険

全ての加盟員に対人（1事故最大5億）および対物（1事故最大500万円）の賠償責任保険を付保し、万が一の際の損害賠償をカバーしました。

また、2021年度より、日本連盟役員の賠償リスクを補償し、安心して組織運営ができるよう会社役員賠償責任保険も付保しました。

#### （47）その他、当連盟の目的達成に必要な事業

##### ①出版物刊行

本年度は次の書籍の発行を行ないました。

〈新刊〉令和5年5月10日『日本連盟規程集』令和5年版

〈改訂〉令和6年3月18日『スカウトハンドブック・ベーシック』改訂版2024

令和6年3月27日『スカウト進級手帳』改訂版2024

〈増刷〉令和5年4月20日『スカウティングフォアボーイズ』33刷

令和5年5月16日『ビーバーノート』37刷

令和5年8月4日『ボーイスカウト指導者手帳改訂版2022』2刷

令和5年8月1日『団の運営と団委員会』22刷

令和5年10月27日『スカウトハンドブック・アドバンス』5刷

令和5年10月27日『ボーイスカウト安全ハンドブック』4刷

令和5年10月30日『カブスカウト歌集』54刷

令和5年11月14日『月の輪ハンドブック』7刷

令和6年1月18日『ロープむすび』44刷

令和6年2月20日『りすの道』9刷

令和6年2月20日『カブブック うさぎ』9刷

令和6年2月20日『カブブック しか』9刷

令和6年2月20日『カブブック くま』9刷

令和6年2月20日『カブブック チャレンジ章』9刷

##### ②「地域連携」

【団および県連盟や地区で活用できる「助成金情報」の提供】

<https://www.scout.or.jp/member/joseikin-matome>

社会からの助成・支援を受けることは、日々の活動をサポートする大きな力になると共に、スカウト活動について地域社会へのアピールにもつながるため、団や地区・県連盟で応募できる助成金情報をまとめて紹介しました（随時更新）。

令和6年能登半島地震に際しては、災害支援関連の助成金情報も追加しました。

##### ③「研修依頼」

主催 兵庫県阪神さくら地区

実施日 12/2

実施内容 団委員長フォーラム「地区や団の持続可能性～ファンドレイジングは社会を変える」

## 5. 各種会議の開催報告

### （1）評議員会

【第1回】

日時：5月26日（金）15：00～16：40

場所：岡山・ホテルグランヴィア岡山

出席者：永井淳 評議員長他評議員26人、参席8人

議 題：2022年度決算について/理事の選任について

【第2回（臨時）】

日 時：3月9日（土）14：00～17：00

場 所：国立オリンピック記念青少年総合センター及びオンライン

出席者：評議員27人、参席9人

議 題：理事・監事の選任について

(2) 理事会

【第1回】

日 時：5月11日（木）19：00 ～ 21：00

場 所：オンライン

出席者：水野理事長他理事19人、参席1人

議 題：2022年度の事業報告について/2022年度の決算について/理事候補者の選任について/評議員会の開催について/2023年度維持会費の都道府県連盟への協力依頼について/他

【第2回】

日 時：10月7日（土）14：00～16：40

場 所：東京・京王プラザホテル「高尾」

出席者：水野理事長他理事16人、参席3人

議 題：2024（令和6）年度事業計画策定について/2024（令和6）年度国等の補助事業・公益団体等助成事業について/理事・監事選定委員会について/第13回日本アグリーナリー予算について/第19回日本スカウトジャンボリーの開催地について/名誉役員の交代について/2025（令和7）年全国大会の開催地について

【第3回（臨時）】

日 時：1月13日（土）14：00～16：30

場 所：東京・国立オリンピック記念青少年総合センターおよびオンライン

出席者：水野理事長他理事18人、参席2人

議 題：2023年度第2回評議員会（臨時）の議案について/任期満了に伴う理事・監事の選任について/2024年度・2025年度の各種委員会等の委員長の選任について/第25回世界スカウトジャンボリー決算について/教育規程改正について/日本連盟諸規程の改正について/寄付金の特定資産への繰り入れについて/国際登録料改訂の申し入れについて/2026（令和8）年度全国大会の開催地について/令和6年能登半島地震SAJ支援について

【第4回】

日 時：3月9日（土）10：00 ～ 13：00

場 所：東京・国立オリンピック記念青少年総合センターおよびオンライン

出席者：水野理事長他理事17人、参席3人

議 題：2024年度事業計画について/2024年度予算について/特定資産の取り扱いについて/令和6年能登半島地震被災地域団の加盟登録料について/加盟登録料の減免について/2024年度第1回評議員会の議案について/規程の改正について/2024年度以降の日本連盟の組織体制と特別委員会の設置について/評議員の交代について/定款に基づく役員の選任について/理事等役職者の役務に関する規程に基づく役職者の選任について/任期満了に伴う名誉会議議長の選任について/名誉会議議員の交代について/名誉役員の選任について/危機管理委員会の設置について/第19回日本スカウトジャンボリー基本構想について/世界会議派遣団の編成ならびに予算・議題につい

て/ APR サミット会議出席者について/エンタープライズからの借入金の要望について/日向野営場の簿価の見直しについて

### (3) スカウト教育推進本部会合

総コミッショナー主宰会議であり、スカウト教育に関わる事項について企画・立案し、県連盟との協力により、スカウト運動の基準の維持を図るとともに、所管業務の執行に当たる機関として設置しています。

今年度の開催状況は、以下の通り。

第1回： 4月 8日(土)～ 9日(日) 場所：東京・国立オリンピック記念青少年総合センター

第2回： 9月 2日(土)～ 3日(日) 場所：スカウト会館

第3回： 11月11日(土)～12日(日) 場所：スカウト会館

第4回： 2月10日(土)～11日(日) 場所：スカウト会館

#### 【主な協議事項】

- ・教育規程改正
- ・コミッショナーの取り組む教育施策の推進
- ・プログラム委員会の取り組み
- ・A I S委員会の取り組み
- ・青年の参画方針と青年の意思決定プロセスへの参画に関する方針
- ・全国スカウト教育会議の内容
- ・全国県コミッショナー会議の内容
- ・国際会議への参加および国際交流事業の推進
- ・世界スカウト機構の取り組み理解
- ・全団調査の活用
- ・全国ローバースカウト会議への支援
- ・青年世代対象事業への支援
- ・各常設委員会との連携事業の推進

### (4) 常設委員会

#### ①総務委員会

11回の委員会を開催し、下記について取り組みました。

- ・理事の業務執行内容の確認
- ・各委員会の施策の確認、連携及び情報交換
- ・協力事項の確認
- ・連盟行事及び会議等の内容及び進行の調整及び確認
- ・日本連盟運営に関する各種協議

#### ②財務委員会

4回の委員会を開催し、日本連盟の財政状況の検討確認を行いました。

日本連盟の決算報告書・予算書の作成・承認を行い、理事会・評議員会に提出を行った。

#### ③共済委員会

4回の委員会を開催し、年度事業への取り組みを行いました。

共済事業報告、決算の作成・承認、事業計画および予算の作成・承認、全国大会テーマ集の取り組み、安全促進フォーラムをはじめとする安全普及啓発活動の実施、スカウティング誌「安心・安全講座」連載記事の作成、手引きの作成、文部科学省への報告等を行いました。

また、より良い共催事業を運営するため、委託業者を次年度から変更するための取り組みを行いました。

事業については当該欄参照

#### ④広報委員会

毎月定例で委員会を開催（4月は2回、計13回）し、担当事業などについて協議を行いました（各事業については当該欄参照）。

#### ⑤組織拡充委員会

毎月、計12回の委員会を開催（対面4回＝内2回は全国組織拡充担当者会合後、オンライン8回）し、担当事業等について協議を行いました（各事業については当該欄参照）。

#### ⑥プログラム委員会

毎月定例で委員会を開催（対面2回、オンライン9回）し、各施策や担当事業等について協議を行いました（各施策・事業については当該欄参照）。

#### ⑦Adults in Scouting（A I S）委員会

定例の委員会を4回開催（全て対面）した他、オンラインにて臨時委員会を1回開催しました。また、対面4回の開催は、日本連盟ディレクターチームとの合同会議で開催しました。

#### ⑧社会連携小委員会

毎月第3水曜に開催（オンライン12回）し、担当事業について協議を行いました（各事業については当該欄参照）。また、他の常設委員会との対話を重ね、紙媒体の廃止に向けて対象別の情報提供の検討、主として法人向けアニュアルレポート構成案の検討などで意見交換を行いました。

#### ⑨資金醸成小委員会

毎月定例で委員会を開催（オンライン会議）し、担当事業について協議を行いました（各事業については当該欄参照）。

#### ⑩DX小委員会

S A J 会員マイページの機能拡張を検討するため、I T ステアリングコミッティー（オンライン会議）を2回開催しました。

#### ⑪信仰奨励小委員会

9回の委員会（うち2回は対面）を開催し、各施策や宗教関係者の運営について協議を行いました（18）プログラムの棚卸改定事業①信仰奨励を参照）

### （5）特別委員会

#### ①第13回日本アグーナリー実行委員会

高崎実行委員長（福島連盟副連盟長）他委員13人および福島連盟役員、福島県社会教育課職員が参席され、第5回～第9回の5回の実行委員会を開催、その他に、活動サービスセンター、生活サービスセンター7回、一般参加サービスセンター3回、総合サービスセンター7回、チャレンジクルーセンター5回の各専門部会を開催して準備を進めました。（準備内容は該当欄を参照）

② 第25回世界スカウトジャンボリー（25WSJ）派遣実行委員会

出田行徳実行委員長（派遣団長・常務理事）のもと、各ブロック選出委員を含む11人で実行委員会を編成しました。今年度は拡大実行委員会として派遣団本部会議を大会前に3回開催し、派遣への諸準備を進めました。また、大会後には報告書および決算見込みの取りまとめのための本部会議を1回開催しました。

③ 第19回日本スカウトジャンボリー会場選定特別委員会

昨年度末までに情報提供のあった7つの候補地のうち、有力な3か所の現地調査を行い、条件の良い1か所に絞り込み、地元自治体や県連盟と調整のうえ、会場候補地として選定して、理事会へ提案した。

④ 第19回日本スカウトジャンボリー開催準備特別委員会

会場選定特別委員会による会場選定を受けて、候補地の調査を含めて計4回の委員会を開催して、基本構想をまとめて理事会へ提案した。

⑤ 「スカウト用品経営会議」特別委員会

毎月定例で委員会を開催（オンライン会議）し、ボーイスカウトエンタープライズの経営状況について協議を行いました。決算報告書・予算書の作成・承認を行い、理事会・評議員会に提出を行った。

(6) 全国県コミッショナー会議

本会議の任務を、(1)本連盟が推進する教育活動の「基準」を維持し、純正な発展のために必要な施策を推進すること。(2)県連盟の実状を教育推進本部に報告し、本連盟の施策策定に資すること。(3)県コミッショナー相互の研鑽により、その資質向上を目指すことに改正し、各県におけるスカウト教育の推進、指導者の資質の向上に向けた様々な協議、意見交換が行われました。

第1回： 5月27日（土）場 所：岡山・岡山シンフォニーホール

第2回： 10月13日（金）～15日（日）

場 所：東京・国立オリンピック記念青少年総合センター

第3回： 1月20日（土）～21日（日）

場 所：東京・国立オリンピック記念青少年総合センター

(7) 新年賀詞交歓会

水野理事長の挨拶、三毛副理事長による乾杯後、歓談。第25回世界スカウトジャンボリー等の映像や第13回日本アグーナリーの紹介し、村田総コミッショナーによる弥栄等、新年をお祝いしました。

日 時：1月27日（土）17：00～19：00

場 所：東京・明治記念館

出席者：企業・団体関係者、水野理事長、ほか日本連盟役員、都道府県連盟理事長等81人

古川和独立行政法人国立青少年教育振興機構理事長をはじめ14人のご来賓をお迎えして、新年賀詞交歓会を開催しました。三毛副理事長による乾杯後、歓談。第25回世界スカウトジャンボリーの様子や第13回日本アグーナリーを紹介し、村田総コミッショナーによる弥栄等、新年をお祝いしました。

#### (8) 宗教関係代表者会議

コロナ禍の影響により2期4年間は会議を開催できずにいましたが、2023年3月4日にボーイスカウト会館でオンラインを併用しながら会議を開催し、続いて5月の全国大会時の2024年度第1回の会議を開催し、今後も日本連盟の諮問に添えていくため定期的に開催していくこと、また、各教宗派においてもこの宗教関係者の会の会員拡大を進めていくことを確認しました。

#### (9) 名誉会議

第1回会議(9月9日)では2024(令和6)年度表彰の審査基準を協議し、第2回会議(2024年3月23日)において審査を行いました。また、たか章授与数案、感謝・表彰関連規定の改正の検討のため、臨時会議を1回開催しました。

表彰者については、「2024(令和6)年度表彰者名簿」参照

#### (10) 県連盟代表者会議

##### 【第1回】

日 時：5月27日(土) 15:40~17:30

場 所：岡山・ホテルグランヴィア岡山

出席者：46都道府県連盟理事長・事務局長86人(代理含む)

日本連盟 水野理事長、ほか理事8人、プログラム委員会副委員長1人

議 題：2022年度事業報告および決算について/2023年度事業計画および予算について/2023年度維持会費の都道府県連盟への協力依頼について ほか

##### 【第2回】

日 時：1月27日(土) 13:30~16:30

場 所：東京・明治記念館

出席者：43県連盟から理事長43人(代理者含む)、参席2人

水野日本連盟理事長、ほか理事9人

議 題：令和6年能登地震支援について/2024年度事業計画(案)について/2024年度予算(案)について/2024年度全国大会および県連盟代表者会議について/第13回日本アグーナリーについて/第19回日本スカウトジャンボリーについて/スカウティング誌紙媒体廃止およびマイページについて/夏季限定ユニフォーム(ポロシャツ)について ほか

## 6. 【参考】規程等改正一覧

### 【教育規程】

承認日：令和6年3月9日 施行日：令和6年4月1日 承認機関：理事会

1-10(教育の区分と対象) 改正

承認日：令和6年1月13日 施行日：令和6年4月1日 承認機関：理事会

3-73(ベンチャースカウトの入隊) 改正

7-25(ボーイスカウトの進級課程) 改正

7-29(ベンチャースカウトの進級課程) 改正



7-30 (ローバースカウトの教育) 改正  
7-32 (ローバースカウトの活動の実施) 改正  
7-39 (面接の区分) 改正  
7-41 (進級記章等の交付申請) 改正  
7-42 (進級記章の授与) 改正  
7-54 (初級) 改正  
7-55 (2級) 改正  
7-56 (1級) 改正  
7-57 (菊) 改正  
7-59 (ベンチャー章) 新設  
7-60 (隼) 改正  
7-61 (富士) 改正  
7-63 (技能章課目) 改正

承認日: 令和5年5月11日 施行日: 令和5年5月12日 承認機関: 理事会

8-14 (修了証の認証) 改正

承認日: 令和6年3月9日 施行日: 令和6年4月1日 承認機関: 理事会

9-4 (スカウト・指導者の正装) 改正

9-9 (装着) 改正

承認日: 令和5年5月11日 施行日: 令和5年5月12日 承認機関: 理事会

9-12 (各種有功記章の着用) 新設

9-13 (訓練修了章) 新設、以下条文番号修正

#### 【教育規程 施行細則】

承認日: 令和5年11月10日 施行日: 令和6年4月1日 承認機関: 教育推進本部会合

7-8-8 (参加者の資格) 改正

7-63-1 (技能章課目) 野営章とハイキング章を改正、読図章を新設、以下番号を繰り下げ

承認日: 令和5年2月12日 施行日: 令和5年5月12日 承認機関: 教育推進本部会合

8-14-1 (区分・種類) 削除(9-13-1に新設)

8-14-2 (着用方法・部位) 削除(9-12-2に新設・統合)

8-14-3 (様式等) 削除(9-13-2に新設)

承認日: 令和6年2月10日 施行日: 令和6年4月1日 承認機関: 教育推進本部会合

9-4-1 (ボーイスカウトの正装、ローバースカウトの正装、指導者の正装) 改正

9-5-1 (礼装の着用基準) 改正

9-9-1 (記章、標章の着用基準) 改正

9-9-6 (ローバースカウトの記章) 改正

承認日: 令和5年11月10日 施行日: 令和6年4月1日 承認機関: 教育推進本部会合

9-9-4 (ボーイスカウトの記章) 改正

9-9-5 (ベンチャースカウトの記章) 改正

9-9-6 (ローバースカウトの記章) 改正

9-9-7 (進級記章) 改正

9-9-8 (スカウト顕彰の記章) 改正

9-9-9 (指導者の記章) 改正

承認日: 令和5年2月12日 施行日: 令和5年5月12日 承認機関: 教育推進本部会合

9-9-10 (ウォッグル及びウッドバッジとスカーフ) 削除(9-13-3へ移動)、以下条文番号修正

9-9-12 (各種有功記章の着用機会) 削除(9-12、9-12-1へ移動)  
9-9-13 (各種有功記章略称の着用位置) 削除(9-12-1へ移動)  
9-9-14 (国・外国政府からの勲章) 削除(9-15-1へ移動)  
9-9-15 (本連盟以外からの有功記章) 削除(9-15-2へ移動)  
9-12-1 (各種有功記章の着用機会) 新設(9-9-12を一部修正)  
9-12-2 (各種有功記章略称の着用位置) 新設(9-9-13を一部修正)  
9-13-1 (区分・種類) 新設(8-14-1を移動)  
9-13-2 (様式等) 新設(8-14-2を移動)  
9-13-3 (ウォググル及びウッドバッジとスカーフ) 新設(9-9-10を移動)  
9-15-1 (国・外国政府からの勲章) 新設(9-9-14を移動)  
9-15-2 (本連盟以外からの有功記章) 新設(9-9-15を移動)、以下条文番号修正

### 【3. 理事等役職者の役務に関する規程】

承認日：令和6年1月13日 施行日：令和6年4月1日 承認機関：理事会  
第4条(役職) 改正  
第5条(選任) 改正  
第8条(運営部門役職者の役務) 改正  
第9条(その他役職者の役務) 改正  
第10条(運営顧問会議及び教育顧問会議の議員の役務) 新設、以下条文番号修正

### 【5. 会員に関する規程】

承認日：令和6年3月9日 施行日：令和6年4月1日 承認機関：理事会  
第3条(3号会員) 改正

### 【6-2 感謝・表彰規程】

承認日：令和6年1月13日 施行日：令和6年1月14日 承認機関：理事会  
第5条(本連盟表彰) 改正

### 【6-3 感謝・表彰規程 細則】

承認日：令和6年1月13日 施行日：令和6年1月14日 承認機関：理事会  
第1条(日本連盟有功記章) 改正  
第2条(本連盟有功記章略章) 改正  
第4条(都道府県連盟有功記章略章) 改正

### 【7. 委員会規程】

承認日：令和6年1月13日 施行日：令和6年4月1日 承認機関：理事会  
第3条(委員会の設置) 改正  
第5条(常設委員会の役割) 改正  
第7条(委員) 改正  
第8条(構成) 改正

### 【8. 危機管理規程】

承認日：令和6年1月13日 施行日：令和6年1月14日 承認機関：理事会  
第16条(危機事態対策室) 改正  
第27条 改正  
第28条(委員会の任務) 新設(危機管理委員会規程から移動)  
第29条(委員会の構成) 新設(危機管理委員会規程から移動)  
第30条(委員会の権限と理事会への報告) 新設

## 【8-2. 危機管理委員会規程】

廃止 承認日：令和6年1月13日 施行日令和6年1月14日 承認機関：理事会

## 7. ボーイスカウト（BS）エンタープライズ事業報告

### （1）在庫の適正化、効率化

前年度に引き続き、各商品は適正在庫数量に調整を進めた。各商品の発注ロット数の見直しや受注販売などの展開を行い、倉庫の管理料などの固定費の削減を行いました。

### （2）直営店移転

スカウトショップ東京を荻窪から御茶ノ水へ移転し、1階の路面店として交通の便がよいロケーションになったこともあり、直営店の売上は移転オープン後の7月22日から1月末までで前年比177%と上昇した。

### （3）新商品開発

日本連盟商品開発小委員会を中心に、新商品の開発・販売に注力しました。

例年好評の福袋については今年度も冬季限定販売の要素としてトートバッグと限定ワッペンを作成し付加価値を高めて販売したところ即日完売となりました。

### （4）その他

用品の販売の意味、意義を再確認し、適正な価格の設定を行い、都道府県連盟との関係、協力会社との関係を見直し、よりスカウト運動に貢献できる事業展開を今後も継続します。

